

祝 辞

3年間の熱田高校での学びを終了された353名の卒業生の皆さん、本日はご卒業、誠にありがとうございます。PTAを代表して一言お祝いを申し上げます。そして、三年間、授業に部活に人生の師としてご尽力いただきました先生方、また18年間それを支え育ててくださったご家族の皆様にご心からの感謝を申し上げます。また、ご来賓諸氏におかれましては、ご多用の中をご臨席賜りましたこと篤く御礼申し上げます。

さて、三年前の入学式、本日も式を盛り上げてくれる吹奏楽部の生演奏に感動しつつ、この講堂に入られたと思います。また初めて顔を合わせた同級生たちと、これからいったいどんな学校生活が始まるのか期待と不安に胸ふくらませたことかと思えます。あれから三年、日々の授業や部活動、遠足、球技大会、修学旅行、学校祭、そして、実力テストや定期試験など、苦しかったこと、悲しかったこと、そして何より楽しくうれしかったこと、今、あなたの心のスクリーンの中で走馬灯のようかけめぐっているのではないのでしょうか。

この三年間の経験すべてが「学んだ」ということの内容でした。人間は、学ぶことに於いて人生の幅と厚みを賜るのです。人間、学ばなければ、薄ぺらな人生を肩をいからして歩まねば成りません。つまり「学んだ」ことの唯一の証しは、変わると言うことです。学びのすべてが、あなたがあなたになっていく歩みだったのです。

じつは私の、高校三年生の時、高 史明という先生との出会いがありました。この方は在日朝鮮人です。岡百合子さんという中学校の社会の先生とご結婚され、待望の子供さんが授かり岡真史くんという名が付けられました。たいへん賢く優秀でした。しかし、12歳で自死なさり、ご両親は悲嘆にくれました。「なぜこの子は死なねばならなかったのか。何が原因だったのか」こどもの遺品をたよりに、原因を究明しました。そんな中で、真史が12歳の中学生に成ったとき、自分の部屋に呼んで「もうお前は、中学生だ。大人の仲間入りだ。これからは、他人様の迷惑に成らないように生きていきなさい。それから、自分のことは自分で責任をとるように」と彼に言ったというのです。じつは、その言葉が彼を、自殺に追いやったのではないかと先生は慚愧されたのです。

本来、こう言わねばならなかったと。「もうお前は、中学生だ。大人の仲間入りだ。いままで、どれだけ他人様に迷惑をかけて育ってきたことであろうか。他者の迷惑に成らないよう生きてきたことがあろうか。我々は、その迷惑の上に成り立っているような存在だ。どうか、そのことをきちっと見ていける人間となろう。それから自分のことは自分で責任を取る事は大事なことだが、一つだけ取ってはならないものがある、それはいのちだ。自分の命、他者の命を尊重していけるそんな大人として生きよう。」本来、こう言わねばならなかったと。

いま、着ている服、歩んできた靴、舗装した道路など、私を取り囲んでいるすべては、自分で造ったものでしょうか。そうでは、ありません。

そういう他者の苦労の上に、生きてきたのです。そのことに、きちっと目を向けていける者を古来より「人間」と呼んできたのです。

どうぞ、この3年の学びによって賜った人生の厚みと幅を糧とし、他者の流した汗や涙が観じていける「人間」になろうではありませんか。

人間はあるものでなく、なるものです。生涯続けて成り続けるものです。

これから貴方は、共に学んだ友や恩師の元を離れ、学生生活、社会人として人生の道を行んでいかれますが、生きることに於いて、「何が一番大切か」そのことから眼をそらさずに一步一步人生を歩んで頂きますことを憶念し、お祝いの言葉とさせていただきます。